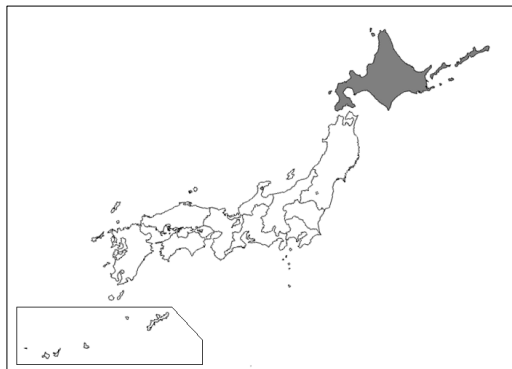


3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばい。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

なし

1. 鉱工業生産等の動向

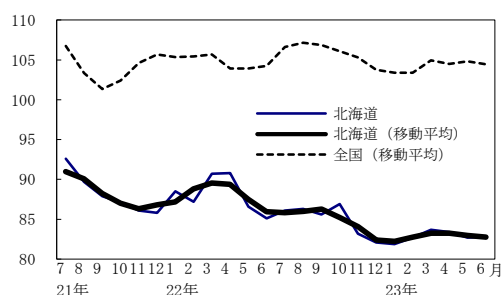
(1) 第一次産業は生乳生産は前年を下回り、主な水産物の生産額は前年を上回っている。

4－6月期には、生乳生産は総量では1,071,265t と前年同期比3.2%減となった。主な水産物の生産額（主要9港）は、ほっけ等が増加したため、前年同期比21.3%増となった。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばい。

4－6月期の鉱工業生産は、前期比0.2%増となった。月別にみると、4月は食料品が減少したこと等により前月比0.4%減、5月はパルプ・紙・紙加工品が減少したこと等により同0.8%減、6月は化学・石油石炭製品が増加したこと等により同0.1%増となった。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 2015年=100（全国は2020年=100）、季節調整値。北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

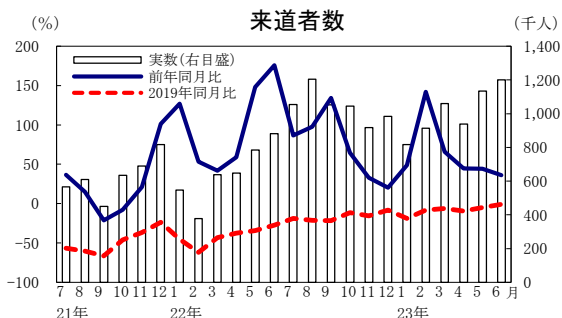
	付加価値 ウェイト	生産				
		1－3 月期	4－6 月期	4月	5月	6月
食料品	25.9	4.2	▲2.0	▲1.4	▲1.6	2.1
パルプ・紙	13.1	▲1.3	▲6.7	▲2.6	▲7.3	▲7.7
電気機械	9.1	▲7.7	10.3	8.1	3.3	5.4
鉄鋼	7.9	▲14.5	1.1	▲4.7	16.4	▲3.3
化学・石油石炭製品	7.6	▲10.6	▲1.3	▲0.8	1.9	11.8
鉱工業	100	▲1.5	0.2	▲0.4	▲0.8	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4－6月期、6月は速報値。

(1) 北海道

(3) 観光は持ち直している。

4－6月期の来道者数は、航空機の利用者増などがあり、前年同期比41.4%増(2019年同期比5.0%減)となった。月別では、4月は前年同月比44.7%増(2019年同月比9.6%減)、5月は同44.4%増(同5.1%減)、6月は同36.3%増(同0.8%減)となった。



(備考) 北海道観光振興機構調べ。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4－6月期は前期比0.8%減となった。月別にみると、4月は前月比1.0%減、5月は同1.1%増、6月は同1.0%減となった。

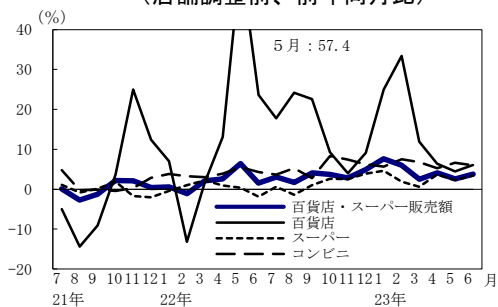
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4－6月期は前年同期比3.5%増となった。月別にみると、4月は前年同月比4.1%増、5月は同2.6%増、6月は同3.8%増となった。

百貨店は、4－6月期は前年同期比5.6%増となった。

スーパーは、4－6月期は同3.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



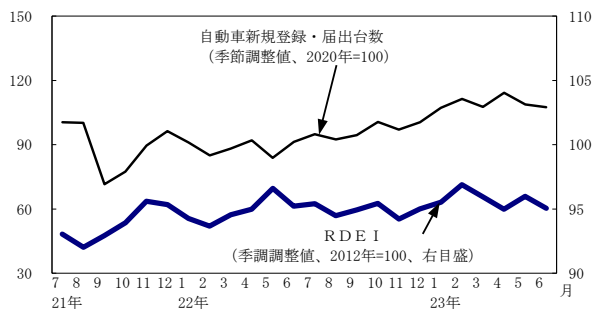
	2023年4-6月	2023年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	▲0.8	▲1.0	1.1	▲1.0
百貨店・スーパー(*2)	3.5	4.1	2.6	3.8
百貨店(*2)	5.6	6.4	4.5	6.1
スーパー(*2)	3.1	3.7	2.3	3.4
コンビニ(*2)	6.0	5.3	6.6	6.0
乗用車(*3)	22.9	24.5	28.8	17.0
(季節調整値)(*3)	1.4	6.2	▲4.8	▲1.1

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

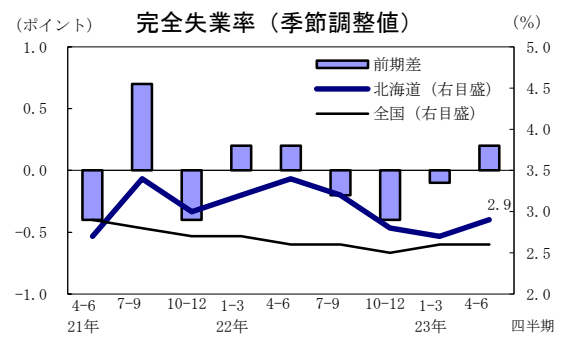
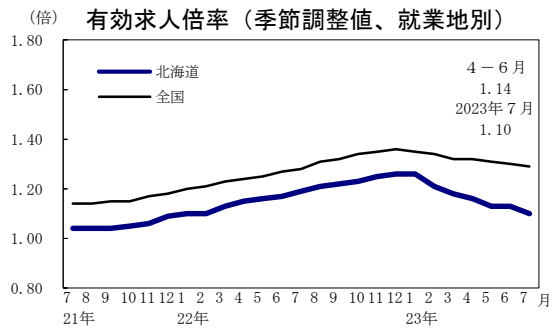
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある（P10 参照）。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年7月調査）景気判断理由の概要

1. 北海道

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連	○	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類になり、祭りや商店街のイベントをコロナ禍前のように開催できるようになったことで、再開を待ち望んでいた多くの来街者でにぎわっている。人出はコロナ禍前よりも増えているほどである。各商店の来客数や売上も以前の状態に回復しつつある（商店街）。
	□	・買物の様子を見ると、値引きクーポンや無料券などを利用する買い方が以前よりも増えている。また、単価の高い商品の動きが鈍化している（コンビニ）。
	▲	・シャツなどの低単価商材は好調だが、先物の秋物スーツが全く動かない。例年であれば、この時期はオーダー商品が動き始める時期だが、今年は暑過ぎるため、全く動きがみられない（衣料品専門店）。
企業 動向 関連	□	・観光関連や飲食業はコロナ禍が明けて回復傾向にあるが、住宅建築関係は建築資材の価格高騰もあって足踏み状態にある。当地では中心街の再開発などに伴ってビルなどの新築が活発であるが、一般的な住宅建築はまだ回復傾向にはない。今後についても、建築資材の価格が落ち着くまで時間が掛かるとみられることから、厳しい状況が続く（司法書士）。
	▲	・7月の売上は3か月前と比べて減少している。前年と比べても少し落ち込んでいる（食品品製造業）。
	○	・6月までの微増傾向と比べて、増加幅がやや拡大している。インバウンドの動きやイベント開催が目に見えて活発になっていることから、景気はやや良くなっている（その他サービス業 [建設機械レンタル]）。
雇用 関連	□	・人手不足ではあるが、物価高、コスト高の影響で採用を手控えたり、既存の人材で対応しようとする企業が多い。一方、観光産業は好調であるものの、人手不足でフル営業ができない状況が続いている（求人情報誌製作会社）。
	▲	・コロナ禍からの回復基調が鈍化している。外国人を含めて観光客は増えているが、エネルギーや資材、原材料などの価格高騰により、回復基調にブレーキが掛かっている。また、少子高齢化に伴って、企業が求める年代の人手不足感も強まっている（求人情報誌製作会社）。
その他の特徴 コメント		○：週末の来客数が増えており、外国人観光客も増加傾向にある。観光シーズンに向けて好材料がみられるようになっている（高級レストラン）。 ○：新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、各種イベントが開催されるようになったことで人流が回復しており、タクシーの乗客数も増加に転じている（タクシー運転手）。
分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連	□	・社会行事や地域行事がコロナ禍前と同じように行われていることで、人の流れが活発になっている。ただ、今後については、物価が高止まりすることも懸念されるため、現状よりも景気が良くなるとは考えにくい（衣料品専門店）。
	○	・人出がコロナ禍前よりも増えていること、それに伴って各商店の来客数や売上も回復しつつあることから、今後の景気は良くなる。ただ、物価や金利の動きによって状況が変化することも懸念される（商店街）。
企業 動向 関連	□	・土木、建築共に、ほぼフル稼働の状態が続くとみられるものの、人手不足の影響が懸念される。また、農業土木工事について、天候による影響が生じることが懸念される（建設業）。
	○	・建設需要が着実に伸びていることから、今後の景気はやや良くなる（その他サービス業 [建設機械リース]）。
雇用 関連	□	・飲食業やホテル・旅館業などでの人材不足が報道され、今後も採用困難な状況が継続することを懸念しているのか、今のうちに人材を採用しようという動きがみられる。そのため、今後も採用ニーズの強い状況は変わらない（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント		▲：夏休み以降、観光需要が一巡し落ち着くことが見込まれる。さらに、光熱費の負担増、物価高の影響で客の節約志向が強まることも懸念される（コンビニ）。 ▲：住宅価格の高騰、地価の上昇、生活にかかわる物価の上昇などの動きがみられる一方で、賃金の上昇が追いついていないことから、今後の景気はやや悪くなる（金属製品製造業）。

(D I) 現状・先行き判断D I（北海道）の推移（季節調整値）

